

環境生活農林水産常任委員会関係

受理 番号	件 名 及 び 要 旨	提 出 者 ・ 紹 介 議 員	提出された 定例会・会議
請 53	<p>(件 名) 旧統一協会・勝共連合と政治家との癒着究明・被害者救済を求める意見書を求めることについて</p> <p>(請願趣旨) 安倍晋三元首相への銃撃事件を機に、政権党や議員と旧統一協会（世界平和統一家庭連合）の癒着が表面化し、大きな社会問題になっている。 旧統一協会は、多額の献金の強要、洗脳、靈感商法、集団結婚式などの多くの問題を引き起こし、多数の被害者を生み出してきた反社会的カルト集団である。 全国靈感商法対策弁護士連絡会（全弁連）によれば、旧統一協会が「コンプライアンスを徹底した」と主張する2009年以降も被害は続出し、2016年までに64件の相談と金額で7億9150万円に上る被害が報告されている。 さらに、法務省は旧統一協会によるとされる被害に関する相談が9月5日から22日までで1317件あり、10月以降も相談窓口を延長している。 いまでも多くの被害を発生させているにもかかわらず、政治家が旧統一協会と接点を持ち、関連団体のイベントに出席したり祝電を送ったりしたことが相次いで明らかになっている。さらに、イベント名を「ピースロード」や「留学生日本語弁論三重県大会」などと称し、地方ごとの実行委員会に地元選出の国会・地方議員を取り込んで自治体に「後援」を申請することで、公益イベントであるかのような「お墨付き」を与える結果を生じさせてきた。 さらに勝共連合は旧統一協会会員を通じて反共謀略活動を展開し、国政や地方政治で選挙妨害や政治の反動化を進めてきた。</p>	<p>津市寿町7-50 平和・民主・革新の日本をめざす三重の会（略称・三重県革新懇） 代表世話人 大野 章</p> <p>(紹介議員) 山本 里香 稲森 稔尚</p>	4年・11月

受理 番号	件 名 及 び 要 旨	提 出 者 ・ 紹 介 議 員	提出された 定例会・会議
	<p>以上のことから、以下のような請願項目を求める意見書を関係者に提出することを求める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 旧統一協会・勝共連合と政治家の癒着を究明し、関係を完全に断ち切ること。併せて、旧統一協会に対して解散命令を請求すること。 2. 専門家や民間団体と連携して、被害者の実態把握および被害者救済を早急にすすめること。 3. いわゆる「宗教2世」の当事者や親族などが継続して相談できる窓口を国が責任をもって設置すること。 4. 学生などが経験・情報不足などによって反社会的な活動に取り込まれることがないように、高等学校、大学などの教育機関による周知・啓発の実施を支援すること。 <p>衆議院議長 細田博之 様 参議院議長 尾辻秀久 様 財務大臣 鈴木俊一 様 厚生労働大臣 加藤勝信 様 経済産業大臣 西村康稔 様 内閣官房長官 松野博一 様</p>		

環境生活農林水産常任委員会関係

受理 番号	件 名 及 び 要 旨	提 出 者 ・ 紹 介 議 員	提出された 定例会・会議
請 54	<p>(件 名) 私学助成について</p> <p>(請願要旨) (経常経費、施設整備等への補助について)</p> <p>1 公私間の教育費の保護者負担格差を解消するため、私学助成（経常経費、施設整備等）に係る国庫補助制度を堅持し助成額を増額するとともに、私立小・中・高校の経常的経費 2 分の 1 助成を早期に実現していただきたい。 また、私立高校への県費の上乗せをさらに充実するとともに、私立小・中学校への県費の上乗せを実現していただきたい。</p> <p>(就学支援金制度について)</p> <p>2 公私間の保護者の授業料負担の格差を是正するため、私立小・中・高校の就学支援金について、国庫補助のさらなる充実と県費による上積み助成を実現していただきたい。 特に、私立高校については、家庭の経済状況にかかわらず、子どもたちが本当に進学したい学校を選択できるよう、世帯の年収制限を緩和し、公立高校のように、年収約 910 万円未満の世帯まで授業料が実質無償化となるよう国庫補助の引き上げ、県費の上積み助成など支援の拡充を実現していただきたい。</p>	<p>津市上浜町一丁目293番地の4 三重県私立高等学校・中学校・小学校 保護者会連合会 会長 高瀬 一英</p> <p>ほか 20 名</p> <p>(紹介議員) 川口 円 石垣 智矢 中瀬古初美 小島 智子 野村 保夫 野口 正 倉本 崇弘 山内 道明 山本 里香 稲森 稔尚</p>	4 年 ・ 11 月

受理 番号	件 名 及 び 要 旨	提 出 者 ・ 紹 介 議 員	提出された 定例会・会議
	<p>(請願理由)</p> <p>私学助成については平素から格別のご尽力を賜り、深く感謝申し上げます。</p> <p>私どもは、私学各校それぞれの建学の精神に基づく特色ある教育に魅かれ、私学に子どもたちを学ばせている。</p> <p>しかしながら、公私間の教育費負担の格差は極めて大きく、特に入学時納付金、授業料は、私学に学ばせることを望む保護者にとって高い障壁となっている。</p> <p>そのような中、私立高校生徒への就学支援金は、令和2年度から国の助成により、年収約590万円未満の世帯の授業料は実質無償化としていただいた。しかし、公立高校は、年収約910万円まで無償であり、私立では依然として学費を負担しているのが実情である。</p> <p>また、新型コロナウイルスの感染が収束をみない状況において、依然として社会への経済的影響は深刻化している。</p> <p>将来を担う子どもたちが、多様な教育方針の中から、安心して本当に進学したい学校を選択することができるような教育環境を、今後ますます整えていただきたいと切に願っている。</p> <p>これらのことをご理解いただき、私ども保護者が子どもを安心して私学に学ばせることができるよう特段のご理解とご高配をお願い申し上げます。</p> <p>以上、請願の趣旨について、貴議会において採択いただき、私学助成の充実を求める意見書を国会及び政府に対し提出していただきたく、また、小・中学校への県費の上乗せ、及び私立高校生徒への就学支援金の県費による支援の拡充を実現していただきたく、ここに請願する。</p>		